

第4回総合計画審議会における主な意見

指摘箇所		委員からの主な意見
施策10	取組の方向 2	精神保健の予防的な取組も必要かと思うが、予防するという文言がない。また、さらに踏み込んで書いてもよいのではないか。
施策12,13	-	どこかにダイバーシティという文言があってもよいのではないか。
施策28	取組の方向 4	「それら」を生かした観光交流拠点の創出」とあるが、コンセプト・キーワードをより明確にするため「農業・観光・交通施策」を生かした～」と検討をお願いしたい。
施策29	現状と課題	「非常に厳しい状況にあります」の後に「地域農業の将来を見据えた体制づくりや、支援体制との一体的な推進体制が求められています」と加えていただきたい。
施策29	-	近隣農地や都市農園で生産される、地元産の食料を流通させる地域内自給の促進にもう少し盛り込み、もう少し動きが見えるような、表現にはどうか。
施策29	取組の方向 2	ICTを活用した新技術の導入とあるが、鳥獣被害の防止だけでよいのか。高齢農家の大量の引退時期を迎えており、ICTを活用した省力化や品質向上を図る、いわゆるスマート農業の取組や、植物工場・農家レストランなど具体的な相模原市の農業がどう生き生きとしていくのか方向性が見えるような表現の仕方が欲しい。
施策32	-	保護優先だけでなく、地域振興と文化振興を結び付け、文化産業の振興と言うような要素を盛り込んでいただきたい。
施策42	取組の方向 1	これまで協働を標榜して進めている中で、ここで「協働を知り」というのが今更感がある。
施策42	取組の方向 1	「学ぶための取組」とあるが、具体的な方策をどういう形で今後展開していこうとしているのか意気込みがもう一つ見えない。
施策42	現状と課題	協働に対する意識を醸成とあるが、市民ではなくむしろ行政の意識の醸成が必要ではないか。
施策44	取組の方向 1, 2、指標	目指す方向と測る指標のレベルが違う。住民票のコンビニ交付は既にできていることであり、行政手続きの電子化も進んでいる中で、「住民票の写しなどをコンビニで交付した割合」は、時代にそぐわないのではないか。
施策44	取組の方向 2	「市民が必要なサービスを利用しやすい形で提供できるよう市民の視点に立った行政サービスのあり方を検討し、利便性の向上と効率化を図ります。」とあるが、非常に回りくどい。やはり役所と言う縦割り組織の課題をしっかりと解決するためにワンストップのサービスが欲しいと言うのが市民の気持ちではないかと思うので、もう少しストレートに表現をしたほうがわかりやすいのではないか。
施策44	-	人や企業に選ばれる都市とあるが、市民一人ひとりの満足度をどう深めていくかという発想に立つべきではないか。
施策44	取組の方向 3	「情報通信技術やデータの的確な活用」とその後の「積極的な先端技術の活用」が同じこと言っているように感じる。もう少し具体的に書いておいた方がよい。
施策44	指標	相模原はかなり財政的にも硬直化していることから経常収支比率などを入れられないか。
施策45	-	市からのメールにパスワードがかかっているが、手間であり、コミュニケーションを阻害していると考え。コミュニケーションの充実のために廃止して欲しい。 セキュリティ対策であるためご理解いただきたい。
施策45	-	市民と行政、双方向のコミュニケーションをいかに充実させ、より深いレベルでの創造的なキャッチボールとしての対話と言うものがすごく必要である。対話をどのように位置づけ、発展させていくのか盛り込んでいただきたい。

指摘箇所		委員からの主な意見
施策45	-	行政と市民のコミュニケーションは、ただあれやって欲しいこれやって欲しいと言うコミュニケーションとは違い、行政の意識改革をしないと溝は埋まらないと思う。
施策46	-	重要なのは時代のニーズに合わせて公共サービスをどの箱で誰がどのように提供するかと言うことであり、それはまちづくりや行政組織のあり方などに関係することだと思う。公共施設の維持管理とか適正な総量だとかだけにフォーカスせずに、そのようなところが伝わるような書きぶりしていただきたい。
施策46	-	民間施設の公共的な利活用も盛り込むべきではないか。また、施設の優先度評価や、新規施設のライフサイクルコストの把握といった視点も必要ではないか。
施策47	取組の方向 1、指標	急速な情報化が進展する中でSNSのフォロワー数の増加は、シティプロモーションを測る指標として相応しくないのではないか。
施策47	取組の方向 1	市の価値を高めるプロモーション戦略を考えた場合、認知度よりももっと外の世界に向けて何をしたのか何をするのかと言うところを記述したほうが良いのではないか。
施策33	-	もう少し主体的な取組姿勢を出してよいのではないか。他自治体においては、脱炭素ビジネスを都市経済に取り組むことにより、早めに脱炭素時代の都市間競争力をつけようという意図のもとでの政策推進がされている。本市においても、方向性だけは明確にしたほうが良いのではないか。
施策33	取組の方向 2	パリ協定以降は脱炭素型のまちづくりとして、自治体の姿勢を示すようになってきていると認識している。脱炭素経済に移行するという姿勢を示すようになってきており、2, 3年前までは低炭素型でもよかったと思うが、これからは見通す中で、低炭素型でいいのか。
施策33	取組の方向 4	気候変動適応法を受けての取組の方向だと思うが、題名を見ると温室効果ガスの削減と気候変動への適応であり、なぜ適応策なのか、削減策とし削減の姿勢を見せるべきではないか。
施策34	-	一般的に抽象的なことが並べられているため、少し具体的な事例を組み合わせ、環境を守る子どもたちを育てていくというリアリティを持たせた方がよい。
施策34	-	現在、市民科学というアプローチが注目されており、より横断的な取組として市民活躍の場になると考える。皆でモニタリングをし、問題解決に取り組んでいく体制の整備をどこかで書き込んでいただきたい。
施策35	取組の方向 1	集団資源回収や、店頭回収など、行政回収によらないリサイクルを進めることが必要。そのような、ニュアンスを盛り込めないか。
施策35	取組の方向 1、指標	ごみの総排出量よりは、市民一人当たりのごみの排出量を設定したほうが良い。
施策35	取組の方向 1、指標	4 Rの推進を把握する上で、リサイクル率を把握することは必要ではないか。
施策36	-	家庭ごみの有料化の観点は入っていないのか。 今後8年間の計画の中で、検討する可能性もあるのであれば、そう読み込めるようなニュアンスも入れておくべき。
施策37	取組の方向 2	産業政策の分野や、商業・観光・農業などがあるこの分野にも林業の振興を位置付けるべき。
施策37	取組の方向 2	木質バイオマスを本格的に検討いただき、単に森林・林業の育成・保全のためのサービスを提供するというだけでなく、同時に稼ぐ力を持つという、視点を持ってもらいたい。
施策38,39	-	現行計画から、野生鳥獣と生物多様性が施策として分割されたが、並行してモニタリングできるような体制を整えるべきではないか。

指摘箇所		委員からの主な意見
施策39	取組の方向	現状と課題に都市環境という言葉は入っているが、取組の方向を見ると、自然環境をメインにしているように見受けられる。一方で、生物多様性基本法を見ると、生物絶滅に対する対策を自治体・企業に求めているが、そういう面での都市環境はどうするのかの記述がない。
施策42	取組の方向 1	一番協働を知らなければいけないのは行政の職員ではないか。
施策42	現状と課題	「市民と行政、市民と市民の協働による効果的・効率的な課題解決」とあるが、効果的・効率的という言葉は適切なのか。
施策43	-	まちづくりはまちづくりセンターでやるのか、区役所でやるのか、市役所でやるのかと言う方向が決まっていない。誰が主体的に取り組むのか仕組みを決めてほしい。
施策47	SDGs	施策47に関連するSDGsがないということであるがゴール3, 4, 8, 11などは該当するのではないか。